パネル A　　【SK110 教室】4 日（土）　10: 00～12: 00

# 中国の台頭とラテンアメリカの政治社会

**責任者：岸川毅（上智大学）**

○報告者
　大場樹精（上智大学）「アルゼンチンから見た対中関係：近年の動向と緊密化」
　舛方周一郎（東京外国語大学）「ブラジルから見た対中関係：重層的な深化」
　岸川毅（上智大学）「中国から見た『中阿関係』と『中巴関係』」
○討論者
　園田節子（立命館大学）
　浦部浩之（獨協大学）

趣旨：21 世紀に台頭した経済大国・中国の影響は急速にラテンアメリカにも及びつつあり、いまや中国が米国を抜いて最大の貿易相手となった国もある。その影響は経済のみならず政治外交や社会文化といった領域にも及びつつある。この現象については米国を中心に戦略的観点からの研究がなされているが、国ごとの対中関係を系統的に明らかにした研究はまだ少ない。そこで本パネルでは、中国とラ米諸国との間でどのような性格の関係が形成されつつあり、ラ米諸国の政治社会がどのように受け止め対応しているのかを、「中国・アルゼンチン関係」および「中国・ブラジル関係」を事例として、中国・ラ米双方の報道・世論・論評・学術研究をつきあわせながら明らかにすることを試みる。

## 「アルゼンチンから見た対中関係：近年の動向と緊密化」

**大場樹精（上智大学）**

本報告では、近年のアルゼンチン・中国関係の動向を、アルゼンチン政府や経済界の主要アクターらが何を目的にどのように働きかけたのかという視点から分析する。主にアルゼンチンの主要紙の 1 つである *La nación* を用い、近年利用者が増加しているネットメディアの *infobae* 等も参照して、2010 年代半ば以降の動向を明らかにしていく。

マクリ政権期（2015 年～19 年）のアルゼンチンには、輸出産品の多角化と貿易の拡大が積極的に模索されるなど、中国との経済関係を進化させようとする意思が見られたが、フェルナンデス政権期（2019 年～）に入ると、貿易に限らず両国関係が緊密化している。2022 年 2 月には、亜中国交樹立 50 周年を記念してフェルナンデス大統領が訪中し、アルゼンチンの一帯一路構想への参加が発表された。野党側からは中国に接近することによる対米関係悪化を懸念する声が上がる中、政権党である正義党（PJ）の親中姿勢が強まっている。

## 「ブラジルから見た対中関係：重層的な深化」

舛方周一郎（東京外国語大学）

ブラジル・中国関係は二国間の政治外交だけでなく、経済・社会・文化も含めた重層的な深化がみられる。両国は貿易・投資など実利的な相互補完性と地域協調を基軸とすることで、友好関係を維持してきた。この両国関係を背景に、ピューリサーチセンターの意識調査によれば、長らく中国に好意的、ある程度まで好意的な認識をもつブラジル人の割合は、50%前後を維持してきた。ところが両国が接近したことで、中国の拡張主義や人権問題をめぐり、ブラジルは政府・民間レベルで中国に警戒感を募らせている。では緊張関係も含み持つブラジルの対中姿勢はどのような局面から読み解くことができるのか。

本報告は近年（2016 年～2021 年）におけるブラジル・中国関係の深化と傾向を主に双方の外交政策、世論調査、ブラジル主要紙の論説などを論拠に考察する。さらにコロナ危機が両国関係に与えた効果を踏まえて、他の南米諸国との比較分析にむけた視座を与える。

## 「中国から見た『中阿関係』と『中巴関係』」

岸川毅（上智大学）

本報告の目的は、アルゼンチンとブラジルを事例に、中国から見た 21 世紀の対ラテンアメリカ関係の変遷を明らかにすることにある。ブラジルは中国に鉱物資源と農産物を供給する地域最大の貿易相手であると同時に、新興国として政治的にも協力関係にある。アルゼンチンも中国に農畜産物を供給する重要な貿易相手国として、近年は政治的関りも強めている。中国がこれら二国との関係をどう認識し、どのように維持・発展させようとしてきたのか、またその認識や利害はラテンアメリカ側と一致しているのか、これらの問いについて中国側の学術的議論と報道をもとに考察する。

分析に当たっては、早くから中国と緊密で友好的な関係を築いてきたチリとも比較しつつ、両国の対中関係の特徴を浮かび上がらせることを試みる。